

(40) にんにく

(ア) 病害

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
葉 枯 病 6月上旬～7 月中旬	薬剤防除 1. 茎葉散布
ウイルス病 リーキ黄色条 斑ウイルス (LYSV)、 タマネギ萎縮 ウ イ ル ス (OYDV)、 ニンニク A ウ イルス (GarV- A)、ニンニク B ウイルス (Gar- B)、ニンニク C ウイルス (Gar- C)、ニンニク D ウイルス (Gar- D)	耕種的防除 (ウイルスフリー種苗の生産及び増殖ほ場) 1. 融雪後から収穫までの防虫ネット(目合 0.8mm) による被覆は媒介昆虫であるアブラムシ類の飛来を防止し、ウイルス感染を低く抑える。 2. ウイルスフリー種苗の生産にあたっては、ウイルス検査を実施して感染株の抜き取りを実施する。ウイルス検査には、FITC Detection before Array (FDA) 法を用いることで LYSV、OYDV、allexivirus 属 (GarV-A、Gar-B、Gar-C、Gar-D) の 2 種と 1 属を高感度・短時間で同時検出することが可能である。

(イ) 害虫

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
イモグサレセ ンチュウ  植付前	耕種的防除 健全種球を使用する。 薬剤防除 1. 土壌混和 2. 種球消毒 (1) 粉衣処理 (2) 粉衣処理した種球は、食用や家畜の飼料に用いない。 3. 全面土壌混和と種球消毒の組み合わせにより防除効果は増大する。

(ウ) クリーン農業技術 (病害虫防除関係分) (にんにく)

○耕種的防除

- ・イモグサレセンチュウ対策として、ウイルスフリー化処理した種球を使用するほか、

既発ほ場への作付けは回避する

・細菌病対策として、多窒素栽培を控えることによる過繁茂抑制

※注釈

●イモグサレセンチュウ対策として、ウイルスフリー化処理した種球を使用するほか、既発ほ場への作付けは回避する

イモグサレセンチュウが発生したほ場への作付けは回避する。また、種球はウイルスフリー化処理したものを使用してほ場へのイモグサレセンチュウの持ち込みを避ける。